

研究内容の説明文

献血者説明用課題名※ (括弧内は公募申請課題名)	血液中の細胞に抗酸菌を感染させる実験から抗酸菌症の発症の仕組みを解明する (ヒト末梢血細胞を用いた抗酸菌症の基礎研究)
研究期間	2013 年度 ～ 2033 年度
研究機関名	慶應義塾大学
研究責任者職氏名	准教授 西村知泰

※献血者に対しても理解しやすく、平易な文言を使用した課題名を記入してください。

研究の説明

1 研究の目的・意義・予測される研究の成果等

結核は早急に制圧を要する再興感染症の一つです。現在、結核の標準的な治療は 4 種類の抗結核薬による 6 ヶ月間の治療ですが、服薬コンプライアンスを維持することが難しい点や薬剤の長期治療に伴う副作用(肝障害、神経障害など)の出現などの問題があり、新たな結核の治療法開発が必要とされています。新たな治療法を開発していく上で、結核の病態を明らかにすることは重要です。肺非結核性抗酸菌 (NTM) 症は難治性の慢性進行性呼吸器感染症であり、近年本邦で増加傾向ですが、詳細な病態は明らかになっておらず、標準的な治療法も確立されていません。

本研究は未だ明らかになっていない抗酸菌症(結核、肺 NTM 症)の病態の解明を目的とします。本研究の成果によって、将来、抗酸菌症患者の診断や予防、治療などがより効果的に行われると期待されます。

2 使用する献血血液等の種類・情報の項目

献血血液等の種類：全血（規格外）

献血血液等の情報：なし

3 献血血液等を使用する共同研究機関及びその研究責任者氏名

共同研究機関はありません。

4 研究方法《献血血液等の具体的な使用目的・使用方法含む》

ヒトと他の哺乳類では抗酸菌感染に対する感受性が異なることが知られています。献血血液から分離したヒト末梢血細胞に抗酸菌を感染させ免疫応答を調べることで、抗酸菌症の病態を検討する方法が確立されており (Nishimura T. FASEB J. 27: 3827-36: 2013.)、本研究でも抗酸菌感染ヒト末梢血細胞を用いて抗酸菌症の病態を解明します。

5 献血血液等の使用への同意の撤回について

研究に使用される前で、個人の特定ができる状態であれば同意の撤回が出来ます。

6 上記 5 を受け付ける方法

「献血の同意説明書」の添付資料の記載にしたがって連絡をお願いします。

本研究に関する問い合わせ先

所属	保健管理センター
担当者	西村 知泰
電話	03-5843-6166
Mail	tnishimura@keio.jp